

# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

社会福祉学部・社会福祉学科  
小川 幸裕

作成日2024年1月31日

## 1. 教育の責務

<p>2007年度に弘前学院大学社会福祉学部に採用され17年目となる。 講義科目としてソーシャルワーク総論A・B、演習科目としてソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ、社会福祉実習指導Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、実習科目として社会福祉実習Ⅰ・Ⅱを担当している。 2019年度より大学院社会福祉学研究科を兼務し、福祉援助技術特論Ⅰ・Ⅱを担当している。</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
ソーシャルワーク総論A	1年	講義	前期	ソーシャルワークの構造、ソーシャルワークの形成過程など
ソーシャルワーク総論B	1年	講義	後期	ソーシャルワークに係る専門職の範囲、多職種連携など
ソーシャルワーク演習Ⅳ	3年	演習	前期	ネットワーキング、ソーシャルアクションなど
ソーシャルワーク演習Ⅴ	3年	演習	後期	事例研究、スーパービジョン
社会福祉実習指導Ⅰ	2年	講義	前期	社会福祉実習の意義・目的
社会福祉士実習指導Ⅱ	3年	講義	通年	社会福祉実習の意義・目的、計画書の立案、実習前後指導
社会福祉実習Ⅰ	2年	実習	通年	訪問指導・帰校日指導
社会福祉実習Ⅱ	3年	実習	通年	訪問指導・帰校日指導
基礎演習Ⅱ	2年	演習	通年	文献購読、レジメ作成、報告
専門演習Ⅰ	3年	演習	通年	レジメ作成、報告
福祉援助技術特論Ⅰ	院1年	講義	前期	ソーシャル・ケースワーク
福祉援助技術特論Ⅱ	院2年	講義	前期	ソーシャルワークの理論

## 2. 教育の理念

社会福祉関連科目の講義および演習をとおして、学生が社会福祉およびソーシャルワークに関連する分野で活躍できる専門的な知識とスキルを身につけることを重視し地域社会に対して貢献できる人材を育成することを目指している。

具体的には、学生の個別性を尊重し、個々の人々が持つ異なるニーズや背景を理解し、サポートする能力を育むことを目指し、社会的に弱い立場に置かれる人やマイノリティに対して平等な機会と支援への関心を高める。また、福祉系の分野は実践的なスキルが必要とされるため、実習やフィールドワークを積極的に取り入れ、実際の現場での経験を重視し、座学と体験での学びや気づきとの連動を目指す。

福祉系の分野は複雑で多様な問題を含むため、学際的なアプローチが求められます。異なる学問分野との連携を重視し、多角的な視点からの学びを促進する。

大学における教育は、知識の習得だけでなく、批判的思考、問題解決能力、コミュニケーション能力、チームワークなど幅広いスキルの育成を目指す。

## 3. 教育の方法

### 1. 講義の場合（ソーシャルワーク総論）

主に講義形式でソーシャルワークに関する基本的な概念を伝えている。内容に応じてグループワークを用いて学生同士で気づきや学びの共有を測っている。教材としては、テキスト、文献・資料、動画を用いている。

### 2. 演習の場合（ソーシャルワーク演習、基礎演習、専門演習）

ソーシャルワーク演習では、ソーシャルワークに関連する事例を用いてグループワークを行う。基礎演習では、社会福祉に関連する文献講読を行い、学生が担当箇所のレジメを作成し発表する。専門演習では、学生が自らテーマを設定し、レジメにまとめ発表を行う。基礎演習および専門演習における発表は、学生が司会・進行を行い質疑応答のディスカッションをまとめる。

### 3. 社会福祉実習の場合（社会福祉実習Ⅰ・Ⅱ）

ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術の統合を目指し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。

〈具体化している方法〉

- ・視聴覚の導入：ソーシャルワークに関連する事例などについて、視聴覚を取り入れてイメージの具体化を図っている。
- ・ディスカッション：ディスカッションをとおして、フィードバックし理解を深め、学生同士の交流や自主的な学習に取り組んでいる。
- ・フィールドワーク：座学から得られた内容を基に、実際の現場に出向き、理論を実際の実験や実践に結びつける機会としている。
- ・リアクション・カード：個々それぞれの学習進度を理解するために、リアクションペーパーを活用しながら個別性の対応にも配慮したいと取り組んでいる。
- ・ループリック：レポートの評価にループリックを用い、評価の公平性、一貫性、透明性を担保している。

#### 4. 教育の成果

評価は、「授業評価アンケート」結果から記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して
  - 1-1. 「事前学修（予習）・事後学修（復習）に取り組んでいる」の項目が講義科目・演習科目で全体平均値よりも高いものの、他の項目よりも評価が低い傾向がみられた。
  - 1-2. 「課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる」の項目は全学平均値よりも高い傾向にあるが、演習科目では講義科目よりも低い傾向がみられた。
  - 1-3. 「シラバスに記載された到達目標を達成できると思う」は、演習科目で学部平均値よりも低かった。
2. 「授業担当者に対する評価」に関して
  - 2-1. 「教員の授業方法や使用した教材は、授業の内容の理解に役立つよう工夫されている」の項目は講義科目で低い傾向がみられた。
  - 2-2. 「話し方、言葉は聞き取りやすい」は講義科目において低い傾向がみられた。
  - 2-3. 「教員は、提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている」は、演習科目において低い傾向がみられた。
3. 「授業内容に対する評価」に関して
  - 3-1. 「この授業はシラバスの記載に沿って展開している」の項目が講義科目において低い傾向がみられた。
  - 3-2. 「この授業で扱う量や難易度は適切である」の項目が講義科目および演習科目において低い傾向がみられた。
  - 3-3. 「教科書、資料（ビデオ、スライド、プリント等）、板書は、授業内容の理解に役立っている」は演習科目において低い傾向がみられた。

#### 5. 教育の改善

上記4の「授業評価アンケート」結果を踏まえて、改善すべき点を記す。

- 1-1. 授業終了後に次回の講義予定箇所および予習部分について説明を行う。
- 1-2. オリエンテーションに加え、中間および期末試験前に到達目標について確認を行う。
- 1-3. 各項目の意図や具体的な記載内容の例などを示しレジメ作成の負担軽減を図る。
- 2-1. 事例収集に関するレポート課題や映像資料をもちいて事例の具体的理解を促進する。
- 2-2. 講義開始時にマイクの音量や聞こえやすさなどについて確認を行う。
- 2-3. 学生の発表やディスカッションの内容に対応した参考文献などを提示する。
- 3-1. シラバスの内容沿った展開をおこなう。
- 3-2. 演習で使用するテキストや文献などを見直し、学生が理解しやすい教材に変更する
- 3-3. テーマやディスカッションに応じて参考文献などを提示する。

## 6. 教育の目標

短期目標：「授業評価アンケート」の結果を踏まえて、授業方法や工夫の仕方の不足を補い、改善を図る。具体的には、テキスト・参考文献の見直し、演習科目へのルーブリック導入、事前学習の指示などの結果の可視化については、1～2年後を目途に達成したい。  
中長期目標：学生各自の学修効果・成果の向上するよう学生が主体的に事前学修・事後学修に取り組む方策を検討する。

### 【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. ルーブリック（ソーシャルワーク総論AB「ふりかえりシート」）
4. 授業改善書
5. 大学公式HP社会福祉学部教員紹介